B 14　幼児の発育と男女差に関する一考察と衣服設計の問題点Ⅲ.

（Ⅰ.序・Ⅱ.差異の起因…発表済）

文化女大家政　小川　瞳

目的　前回は，単像写真による2次元的平面計測を実施し，問題点を含みながらも子どもの発育推移と男女差について何らかの指針を得たいと，限られた計測部位による平面計測値を求めてみた。その結果，個体差がいかに多いかを再認識し，男女差や年齢差が判然と解明され，長径項目と幅径項目の発育様相の対比などが顕著に表われた。今回は，前回の平面計測値をもとに，子どもの衣服設計への展開について考察してみた。子どもの範囲は意外に広くすべてを網羅することが不可能と考え，特に幼児に焦点をあて考察した。

方法　1. 平面計測値に表われた数値が，実際に「子供原型」にどのような適合度をもつだろうか。体型の差異と男女差について各年齢の「子供原型」との関連を考察してみた。

2. waist 位置の問題，今回の計測部位には直接関係ないが，waist 位置の設定については，衣服設計の上でかなり重要な視点と考え，人体の骨格から考察を試みた。

3. 幼児の体型と着回りの関係を幼児の体型を考察し，dress の silhouette と視野の問題を，3種の基本的な dress を5名の被検者に着装させ silhouette の差を考察した。

結果　前回発表した計測部位は，長径項目・幅径項目，角度など11項目をほぼ各年齢に亘り計測し，それぞれの年齢差や男女差を考察してみたが，今回衣服設計の問題点として即，参考になる資料は意外に少なく，改めて単像写真による2次元的平面計測の難しさを痛感した。しかし，肩峰幅と肩傾斜角度の男女差については，今後「子供原型」を考える上で重要な視点であると思われ，waist 位置の問題点も人体の脊柱の曲弯との関わりを示す新たな発見であり，幼児の体型と着回りの関係についても1つの裏付けが得られたと思う。